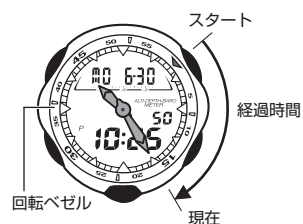
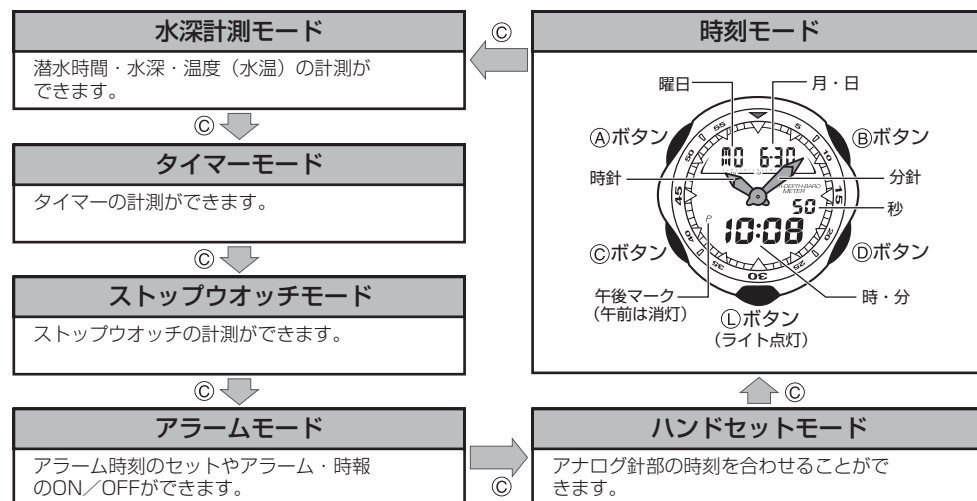
回転ベゼルの使い方

回転ベゼルを回して▼マークを分針に合わせると、その位置をスタートとして経過時間を知ることができます。

操作のしくみと表示の見方

● Ⓒ ボタンを押すごとに、水深計測モード、タイマーモード、ストップウオッチモード、アラームモード、ハンドセットモードに切り替わります。
● 水深計測モードで潜水時間の計測が3時間を超えた場合は、自動的に時刻モードに戻ります。また、水面（水深0m）において水深計測モードのまま約１時間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

● Ⓑ ボタンを押すと気圧・温度計測モードに切り替わり、自動的に計測が開始されます。
● 気圧・温度計測モードで２～３分間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。
● Ⓓ ボタンを押すと高度・温度計測モードに切り替わり、自動的に計測が開始されます。
● 高度・温度計測モードで９～10時間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

水深計測モード

潜水時間・水深・温度（水温）の計測ができます。

Ⓒ

タイマーモード

タイマーの計測ができます。

Ⓒ

ストップウオッチモード

ストップウオッチの計測ができます。

Ⓒ

アラームモード

アラーム時刻のセットやアラーム・時報のON／OFFができます。

Ⓒ

時刻モード

Ⓒ

ハンドセットモード

アナログ針部の時刻を合わせることができます。

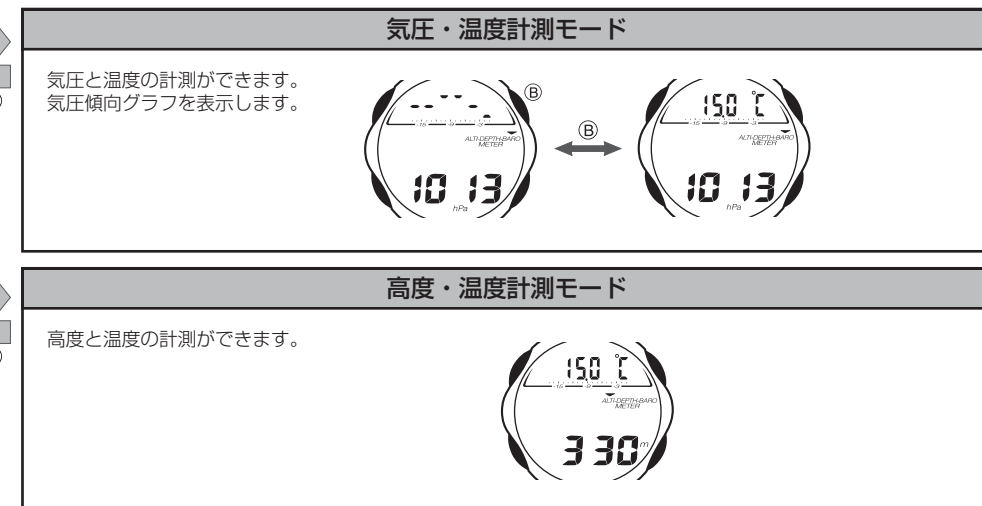
Ⓑ Ⓒ

気圧・温度計測モード

気圧と温度の計測ができます。
気圧傾向グラフを表示します。

Ⓓ Ⓒ

高度・温度計測モード

高度と温度の計測ができます。

表示照明用 EL バックライトについて

本機の表示部にはEL パネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると文字板が発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる ～手動発光～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、

Ⓛ ボタンを押します

➟ Ⓛ ボタンを押すと約２秒間文字板が発光します。

※オートライトOFFのときもⓁボタンを押すと発光します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ 時計を傾けて発光させる ～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても時計を傾けるだけで文字板が発光する便利な機能です。

オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけで文字板が約２秒間発光します。

準備：セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、Ⓛボタンを約2 秒間押し続けて、オートライトON（AUTO 点灯）にします。

※オートライトONのとき、Ⓛボタンを約2秒間押し続けるとオートライトOFF（AUTO 消灯）に戻ります。

●文字板を発光させる

※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を±15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると表示しにくくなります。

〈EL 発光についてのご注意〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中にⓁボタン以外のいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。
- 水深計測モードでは、ライト点灯と水深計測を同時に行なうことができないため、連続して文字板を発光させようとしても断続的に発光します。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトが作動するのは、"AUTO"を点灯させてから**約6時間**です。それ以降は電池消耗防止のため、自動的に"AUTO"が消え、オートライトOFF になります。

※引き続きオートライトを作動させたいときは、再度Ⓛボタンを約２秒間押して"AUTO"を点灯させてください。ただし、オートライトを頻繁に使用すると電池寿命が短くなりますのでご注意ください。

- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約２秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

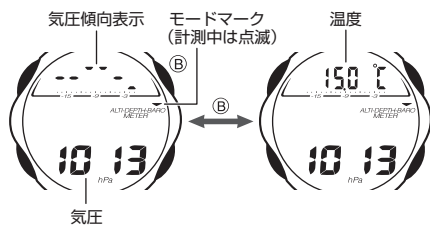
※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。
- ハンドセットモードで針を合わせているときは、オートライトは点灯しません。

気圧・温度計測

■ 気圧・温度計測のしかた

時刻モード、高度・温度計測モードのときにⒷボタンを押して気圧・温度計測モードに切り替えると、気圧と気圧傾向表示または気圧と温度を表示します。

●表示の見方

※ 最初は気圧傾向表示を表示します。

※ Ⓑボタンを押すごとに、表示が切り替わります。

※ モード切り替え直後は気圧表示に4～5秒かかる場合があります。

●気圧・温度計測について

気圧・温度計測モードに切り替えると、最初の約２～３分間は約５秒ごとに計測します。

以後、Ⓑボタンを押すごとに再計測を行ないます。

※外気温を計測するときは､時計を腕からはずして､体温､汗(水滴)､直射日光などの影響を受けないようにしてください。

＜気圧計測＞

計測範囲：600hPa～ 1,100hPa

計測単位：1hPa

※計測値が計測範囲を超えた場合は、"－－－－"表示となります。

＜温度計測＞

計測範囲：－ 10.0℃～ 60.0℃

計測単位：0.1℃

※計測値が計測範囲を超えた場合は、"－－．－"表示となります。

●気圧傾向表示について

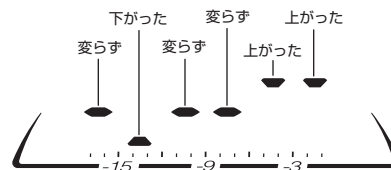
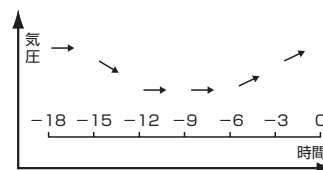
午前0時から3時間おきに自動計測された気圧値をグラフで表示します。

気圧･温度計測モードでボタン操作を行なわずに約2～3分間経過すると､自動的に時刻モードに戻ります。

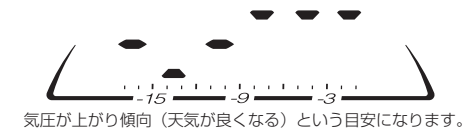
■ 気圧傾向表示の見方

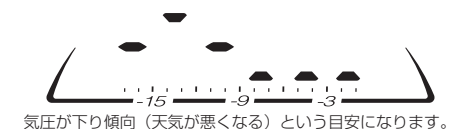
気圧傾向表示は3時間おきに自動計測された気圧を連続して過去18時間分（6回計測）をグラフ表示するものです。

※グラフ表示は前回との差が3hPa以上あった場合に変化します。

主に、気圧の変化を読み、天気の傾向を知る「晴雨計」としてお使いください。

この表示から下記のように気圧傾向の目安が読みとれます。

＜気圧傾向はこのように見ます＞

測定場所の高度などの環境条件が変ると気圧が変化するため、気圧傾向表示に影響を及ぼします。気圧傾向を見るときには、下記の表示例を参考にして気圧変化（お天気の傾向）の目安にしてください。

➔ 気圧が連続して上昇しているとき

気圧が上がり傾向（天気が良くなる）という目安になります。

➔ 気圧が連続して下降しているとき

気圧が下り傾向（天気が悪くなる）という目安になります。

- 温度・湿度の環境によって若干、気圧傾向の表示が変ることがあります。あくまでも気圧傾向の目安として見てください。
- 3時間毎の気圧計測時に水深計測モードを使用していると、その時間帯の気圧傾向は表示されません。
- 気圧計測時にセンサーが故障しているときや電池が消耗しているときには計測は行なわれず、その時間帯の気圧傾向は表示されません。

■気圧調整のしかた

本機は、工場出荷時に大気圧に近い値を表示するように調整してありますので、**本来気圧の調整を行なう必要はありません**。正確な気圧計があって、その気圧に対して本機の表示が大きくずれている場合にのみ以下の操作にしたがい気圧を調整してください。この気圧調整を誤って使用しますと、気圧計測が正しく行なえなくなりますのでご注意ください。

(1)気圧・温度計測モードのとき、

Ⓐボタンを約2秒間押します

➟"OFF"(または温度)が点滅します。

※気圧調整状態にすると、基準となる気圧を計測します。基準値の計測には約4〜5秒かかりますので操作せずにお待ちください。

※基準値を計測する前に操作を行なった場合、正しい値が検出されませんので、Ⓐボタンを押して点滅を止めてから、もう一度操作をやり直してください。

(2)気圧を点滅させるには、

Ⓒボタンを押します

➟"OFF"(または気圧)が点滅します。

(3)気圧値のセットは、

Ⓓまたは Ⓑ ボタンを押します

(−) Ⓑ Ⓓ (+)

➟Ⓓボタンを押すごとに1hPaずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに1hPaずつ戻ります。

※それぞれ押し続けると早送りします。

※Ⓓ・Ⓑボタンを同時に押すと、"OFF"表示となり、工場出荷時に調整してある基準気圧に戻ります。

(4)気圧セット後、

Ⓐボタンを押します

➟気圧・温度計測モードの表示に戻ります。

※気圧調整状態で表示を点滅させたままにしておくと、2〜3分後自動的に点滅が止まり、気圧・温度計測モードの表示に戻ります。

■温度調整のしかた

本機の温度計は、工場出荷時に調整してありますので、**本来温度の調整を行なう必要はありません**。正確な温度計があって、その温度に対して本機の表示が大きくずれている場合にのみ以下の操作にしたがい温度を調整してください。この温度調整を誤って使用しますと、温度計測が正しく行なえなくなりますのでご注意ください

(1)気圧・温度計測モードのとき、

Ⓐボタンを約2秒間押します

温度 Ⓐ 気圧

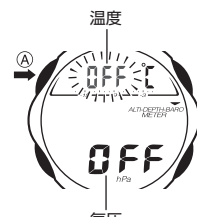
➟"OFF"(または温度)が点滅します。

※温度調整状態にすると、基準となる温度を計測します。基準値の計測には約4〜5秒かかりますので操作せずにお待ちください。

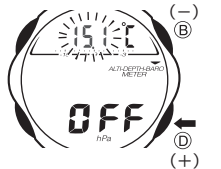
※基準値を計測する前に操作を行なった場合、正しい値が検出されませんので、Ⓐボタンを押して点滅を止めてから、もう一度操作をやり直してください。

(2)温度値のセットは、

Ⓓまたは Ⓑ ボタンを押します

(−) Ⓑ Ⓓ (+)

➟Ⓓボタンを押すごとに0.1℃ずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに0.1℃ずつ戻ります。

※それぞれ押し続けると早送りします。

※Ⓓ・Ⓑボタンを同時に押すと、"OFF"表示となり、工場出荷時に調整してある基準温度に戻ります。

(3)温度セット後、

Ⓐボタンを押します

➟気圧・温度計測モードの表示に戻ります。

※温度調整状態で表示を点滅させたままにしておくと、2〜3分後自動的に点滅が止まり、気圧・温度計測モードの表示に戻ります。

■気圧ミニ知識

●気圧傾向表示の便利な使い方

その1…ハイキングで
ハイキングや山登りなどで出発する前日の夜から朝までの気圧を測り、天気の傾向を知る目安にできます。

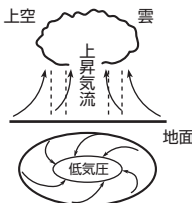
その2…ゴルフで
気圧の傾向が表示されるので、夕立が起こりやすいかなどの天気の傾向を知る目安にできます。

●気圧の変化を読むことにより、天気の予想ができます。

気圧は大気が動くにつれて変化しますので、気圧の変化を見れば天気が良くなるか、それとも悪くなるかをある程度予想できます。
<気圧が高くなりつつあるとき>➔天気は回復傾向
<気圧が低くなりつつあるとき>➔天気は下り坂傾向

その理由は･･･
高気圧あるいは低気圧が接近してくると右記のような天候の変化が生じるからです。

<高気圧のとき>
下降気流となるので雲は消え、天気が良くなる。

<低気圧のとき>
上昇気流となるので雲ができ、雨が降ってくる。

●大気圧について

テレビ、新聞などで発表される気圧値は、実際に山頂や平地や海上で計測した気圧値を海抜0mで測った値に計算していますので、山間部などは天気図上その場所の気圧値ではありません。
これは、気圧分布を見る（気圧を比較する）ためには一定の高さにおける気圧値として統一する必要があるからです。この一定の高さ（海抜0m）として修正することを海面更正といいます。

高度・温度計測

本機の高度計測機能は、内蔵の圧力センサーで検出した変化量を国際民間航空機関（ICAO）が定めている国際標準大気（ISA）と照合し、高度に換算して表示するものです（相対高度計）。

＜ご注意＞

高度を計測する場合は、時計を素肌に直接つけるなどして、なるべく時計自体の温度を一定にし、温度変化の影響を受けないようにして行なってください。

※大気の温度変化および標高差による温度変化の影響を受けると多少の誤差がでることがあります。

■高度計測は何に使う？

その１…ハイキングや山登りで
山のふもとの出発地点から高度計測を開始すると、頂上まで何メートル登ったかがわかります。

その２…自宅の海抜高度がわかる
自宅から海岸まで移動し、この間の高度を計測すると、自宅の海抜高度がわかります。

その３…ビルの高さを測る
高層ビル付近の地上で"0m"に合わせてからビルに登ると、その高さがわかります。
※ビルの中では加圧調整や気温調整により誤差が生じたり計測できないことがあります。

■高度・温度計測のしかた

時刻モード、気圧・温度計測モードのときに Ⓓ ボタンを押して高度・温度計測モードに切り替えると、そのときの高度と温度を計測して表示します。

●表示の見方

※ モード切り替え直後は高度表示に4～5秒かかる場合があります。

●高度・温度計測について

高度・温度計測モードに切り替えると、最初の約２～３分間は約５秒ごとに計測し（モードマーク点滅）、その後は２分おきに自動計測します（モードマーク静止点灯）。

＜高度計測＞
表示範囲：－4,000m ～ 4,000m
（計測範囲内の－700～4,000mの間）
表示単位：5m
計測範囲：－700m ～ 4,000m
計測単位：5m
※本機の高度値は相対高度値ですので、基準高度の設定値により、実際は海面より高くてもマイナス表示されることがあります。
※計測値が計測範囲・表示範囲を越えた場合は、オーバー表示（－－－－）となります。

＜温度計測＞
計測範囲：－10.0℃～ 60.0℃
計測単位：0.1℃
※計測値が計測範囲を超えた場合は、"－－．－"表示となります。

高度･温度計測モードでボタン操作を行なわずに約9～10時間経過すると､自動的に時刻モードに戻ります。

■基準高度のセット

正確な高度計または高度基準の標識のあるところで基準高度をセットするときは、以下の手順で行なってください。

本機で表示する高度は、気圧の変化や、大気の温度変化および標高差による温度変化のために多少の誤差が出ることがあります。そのため、登山のときなどは、高度基準の標識と本機の示す高度とを照らし合わせ、以下の操作にしたがいこまめに高度をセットすることをおすすめします。

(1)高度・温度計測モードのとき、

Ⓐボタンを約2秒間押します

➡"OFF"(または高度)が点滅します。

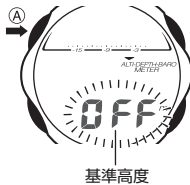
基準高度

※ 高度調整状態にすると､基準となる高度を計測します｡基準値の計測には約4～5秒かかりますので操作せずにお待ちください。

※ 基準値を計測する前に操作を行なった場合、正しい値が検出されませんので、Ⓐ ボタンを押して点滅を止めてから、もう一度操作をやり直してください。

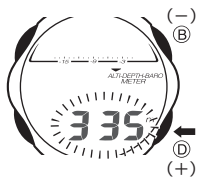
(2)基準高度のセットは、

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

(－) Ⓑ　Ⓓ (＋)

➡Ⓓボタンを押すごとに5mずつ進み､Ⓑボタンを押すごとに5mずつ戻ります。

※ それぞれ押し続けると早送りします。

※ Ⓓ･Ⓑボタンを同時に押すと､"OFF"表示となり､工場出荷時に調整してある基準高度(OFF)に戻ります。

※ 基準高度は－4,000ｍ～4,000ｍまでセットできます。

(3)基準高度セット後、

Ⓐ ボタンを押します

➡高度･温度計測モードの表示に戻ります。

※ 基準高度セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まり、高度・温度計測モードの表示に戻ります。

■高度と温度を同時に計測するには

高度と温度を同時に計測するときは、本機を腕からはずすなど、体温の影響を受けないようにして行なってください。
※ただし、このとき表示される高度値は、温度変化の影響を受けるため、腕につけたまま計測した高度値と比べて若干の誤差を生じることがあります。
※実際の気温と時計の温度が同じになるまで約20～30分程度かかります。

●どちらかを優先して計測するときは

■高度ミニ知識

●高度と気圧・気温の関係

一般的に海面より高度が高くなるほど気圧は低くなり、気温は下がります。したがって、気圧がわかれば高度をある程度知ることができます。

本機では国際民間航空機関（ICAO）が定めている国際標準大気（ISA）の高度と気圧の関係を使って高度を推定する方法を採用しており、相対高度を表示します。

高度	気圧		温度	
4,000m	616hPa	100m毎に約8hPa	－11℃	1,000m毎に約6.5℃
3,500m				
3,000m	701hPa	100m毎に約9hPa	－4.5℃	
2,500m				
2,000m	795hPa	100m毎に約10hPa	2℃	
1,500m				
1,000m	899hPa	100m毎に約11hPa	8.5℃	
500m				
0m	1,013hPa	100m毎に約12hPa	15℃	

（国際標準大気より）

●使用例：海抜高度に近い値を得るには

海抜高度に近い値を表示するように使用するときは、海岸や山の標識などの海抜高度のわかるところで、計測の直前に高度を同じ値にセットしてください。

※日によって気圧の変化があるため、なるべく直前にセットしてください。

例）海抜高度 400 mの標識に合わせる

(1) A地点にて海抜高度400mの標識と同じ値に高度をセットします。
(2) A地点からB地点へ行き、高度を計測します。
(3) もし、B地点にも海抜高度標識があれば、もう一度海抜高度をセットします。

※気圧変化などによりB地点での海抜高度と誤差がある場合は、必ずセットし直してください。

★海抜高度に近い値として使うときの注意点

以下の条件下では正しく計測できない場合があります。

- ●気象条件により大気圧が変化したとき
- ●気温の変化が大きいとき
- ●本機に大きな衝撃を与えたとき

●高度の表現方法（相対高度と海抜高度）

高度を表わす方法には、以下の２通りがあります。

①**海抜高度**…海面からの絶対的な高さ

②**相対高度**…ある場所とある場所との高さの差（高度差）

※本機では、相対高度を計測します。

<海抜高度と相対高度>

●高度計測上のご注意

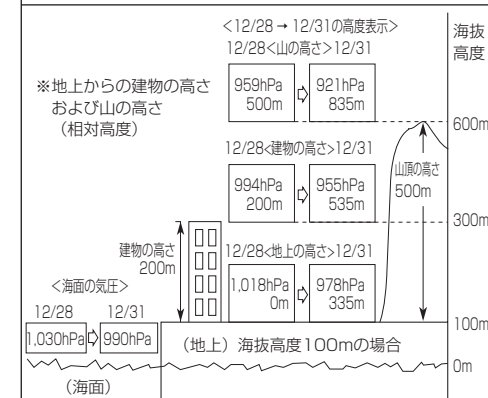
●本機は、気圧の変化を高度に換算しますので、同じ場所で高さを計測しても、気圧が変化すれば高度表示が変わります。

例：地上を0mにセットしても，気圧が変わると高度表示が変わる。
12月28日（晴，高気圧1,030hPa）に地上で0mにセットした場合，12月31日（雨，低気圧990hPa）に気圧が下がり，高度表示をみると地上が335m表示となる。

●天候の急激な変化により気圧や気温が大きく変化した場合は、正しく計測できなくなります。
例：山登り中に低気圧が接近し、気圧が下がったときは、実際より高度が高く表示されます。

●急激な温度変化が計測値に影響を及ぼすため、なるべく時計自体に温度変化の影響を受けないように、素肌に直接つけるなどしてご使用ください。

●飛行機内でアナウンスされる高度は、飛行機の回りの大気圧を計測していますので、実際に機内で計測した高度と一致しません。

●本機の高度計測機能は計測周期の仕様上、以下のような短時間で高度が変化するスポーツには使用できませんのでご注意ください。
例：スカイダイビング、ハンググライダー、パラグライダー、ジャイロコプター、グライダーなど

水深計測機能の使い方

操作のしくみにしたがって©ボタンを押して、水深計測モードにします。

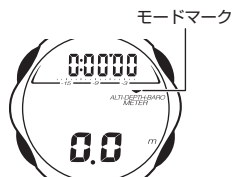
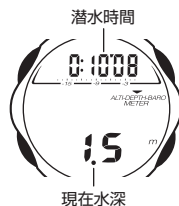
■水深計測機能について

水深計測モードのときに潜水を開始すると、潜水時間・水深・温度（水温）を計測します。
本機では、計測したログデータを１セット（潜水時間・最大水深・水底温度）メモリーします。

本機は、水泳やスキンダイビング（素潜り）などにお使いいただけますが、スキューバダイビング（アクアラング）にはご使用になれませんのでご注意ください。

●表示の見方

●潜水時間・水深・温度（水温）計測について

水深計測モードで潜水により水深 1.0m 以深を感知すると、潜水時間の計測を自動的にスタートします。
以後、水深・温度（水温）は３秒ごとに計測を行ないます。
水深1.0m以浅に浮上すると潜水時間の計測を自動的にストップします。

<潜水時間計測>

計測範囲：2 時間 59 分 59 秒　　計測単位：1 秒

※計測値が計測範囲を超えた場合は、計測をストップして、自動的に時刻モードに戻ります（それまで計測したログデータがメモリーされます)。

<水深計測>

計測範囲：0.0m ～ 30.0m　　計測単位：0.1m

※1.0m より浅い水深では“0.0m”表示、30m を超えると“dEEp”表示となります。

<温度（水温）計測>

計測範囲：－ 10.0℃～ 60.0℃　　計測単位：0.1℃

※計測値が計測範囲を超えた場合は、“－－.－”表示となります。

水面（水深0m）において水深計測モードのまま約1時間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

■水深計測をするときの基本操作

●潜水前には

時刻モードのとき、

©ボタンを押します

➟水深計測モードに切り替わります。

※以後、内蔵の圧力センサーにより自動的に水深・温度（水温）および潜水時間の計測を行ないます。

※本機では、水深計測モードに切り替えたときの周囲圧を水深 0m と設定しますので、潜水前に必ず水深計測モードになっていることを確認してください。

※モード切り替え直後は0.0m表示に4～5秒かかる場合があります。

●潜水後には

水深計測モードのとき、

©ボタンを５回押します

➟時刻モードに切り替わります。

※潜水中（水深 1.0m 以深）では、誤操作防止のため、© ボタンを押してもモードは切り替わりません。

※他のモードに切り替えると、計測したログデータをメモリー後、計測値がリセットされます。

■計測のしかた

●潜水開始で自動計測スタート

水深計測モードで潜水を開始すると、水深 1.0m 以深を感知後、潜水時間の計測を自動的にスタートします。

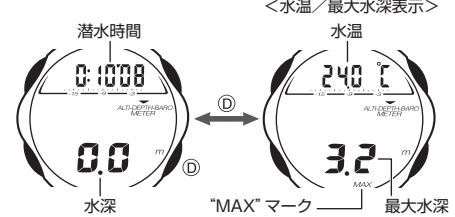
●潜水終了で自動計測ストップ

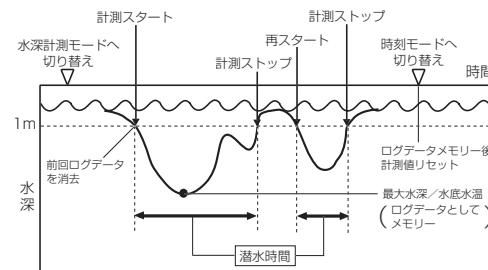
水深1.0m以浅に浮上すると潜水時間の計測を自動的にストップします。

※計測ストップ状態で再び水深 1.0m 以深に潜水すると潜水時間の計測を再開します（潜水時間は前回の続きとして積算します）。

<水面で使える機能について>

水深計測モードのとき、Ⓓボタンを押すごとに、計測表示と水温／最大水深表示が切り替わります。

※水温／最大水深表示のまま約6秒間すると、自動的に計測表示に戻ります。

※水中ではボタン操作を行なわないでください。

計測例）

<ご注意>

- ●水深計測モードでは、オートライト点灯と水深計測を同時に行なうことができないため、連続して文字板を発光させようとしても断続的に発光します。

  ※繰り返し文字板を発光させたいときは、オートライト消灯後、約3秒間してから再び時計を傾けてください。ただし、オートライトを頻繁に使用すると電池寿命が短くなりますのでご注意ください。

- ●水深計測モードでは、タイマーのタイムアップ予告がONでも電子音は鳴りません。また、オートリピートタイマーのタイムアップ音も鳴りませんのでご注意ください（「■電子音の報音について」参照）。

■ログデータについて

潜水終了後、他のモードに切り替えると、計測したログデータを自動的にメモリーします。
他のモードへ切り替えてから再び水深計測モードで新たに計測を開始すると、前回のログデータを消去して、最新のデータが上書きされます。
メモリーできるログデータは以下の 1 セットとなります。

① **潜水時間**…潜水開始後、水深 1.0m 以深での経過時間の積算値（時・分・秒）
② **最大水深**…1 回の潜水における計測水深の最大値
③ **水底水温**…最大水深計測時における計測水温

●ログデータを見るには

水深計測モード（リセット表示）のとき、

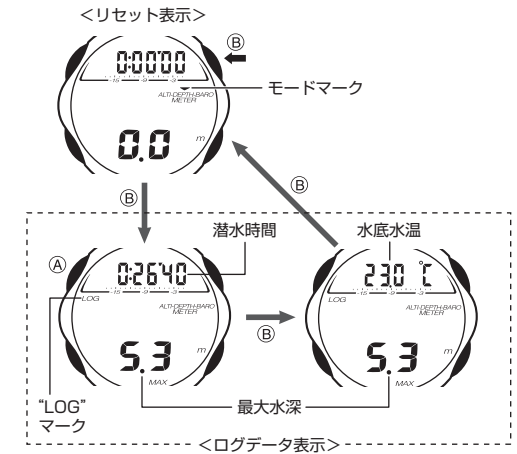
Ⓑ ボタンを押します

➡ Ⓑ ボタンを押すごとに、リセット表示とログデータ表示が切り替わります。

※ ログデータ表示のまま約 6 秒間すると、自動的にリセット表示に戻ります。

※ 計測開始後は、ログデータを見ることはできません。

★ログデータを消去するには

ログデータ表示のとき、Ⓐ ボタンを約2秒間押すと、ログデータが消去されます。

■水温計測について

本機には、温度センサーが内蔵されており、潜水時には水温を計測します。
腕につけていても体温の影響をほとんど受けることはありません。ただし、急激な温度変化（気温と水温との差、水温の変化など）がある場合、時計がその水温になれるまで（実際の水温を表示するまで）、約 5 分程度かかります。

■水深計について

●水深と水圧について

水中では、水深が深くなるにしたがい水圧が大きくなります。海水（比重 1.025）では、水深が 10m 深くなるごとに 1 気圧（1.03kg/cm^2）ずつ水圧が増していきます。
本機では、圧力センサーにより水圧を検出し、水圧と水深の関係より海水における水深を表示します。

※スキューバダイビング用の水深計としては使用しないでください。

●0m リセット機能（水深の基準となる0mを設定する）

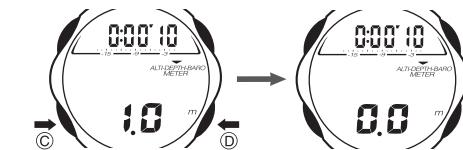
★自動 0m リセット機能

本機は、水深計測モードに切り替えた直後、最初に検出した圧力を水深 0m の基準に設定します。

※水中で水深計測モードに切り替えた場合、正しい 0m リセットが行なえず、水深を正しく計測することができません。水深計測モードへの切り替えは、必ず水面で行なってください。

★マニュアル 0m リセット機能

大幅な温度変化等により水面においても水深表示が0.0mに戻らないことがあります。このようなときは、Ⓒ ボタンと Ⓓ ボタンを同時に押すと、そのときの圧力を水深0mの基準に設定し直します。

※マニュアル 0m リセットは水中では絶対に行なわないでください。

警告表示について

センサーの故障および接触不良、また、計測に悪影響を与える条件下（電池の消耗、低温下での使用などによる電池電圧の低下状態）での使用により、正常な計測が行なえなくなった場合には自動的に計測を停止します。

■計測エラーになったとき

●センサーエラー

過度の衝撃等によりセンサーの故障および接触不良等の原因で計測不可能となったときは、“Err”を表示して計測を中止します。

※水深計測モードでは、“Err”を約２秒間表示したあと、“－－．－”表示となります。

> センサー故障のときは、お早めにカシオテクノ・サービスステーションにてチェックを受けてください。

<気圧計測中>

<水深計測中>

●水深計測オーバー

水深計測モードでは、0.0m～30.0mの範囲内で水深を計測します。水深30.0mを超えると“dEEp”表示となり、更に超えると“－－－－”表示となります。

※“－－－－”表示は圧力の異常値を検出したことを意味しています。

潜水後（正常な大気圧下）においても“－－－－”を表示するときは、Ⓒボタンを約3秒間押し続けると、モードを切り替えることができます。

> 繰り返し“－－－－”表示が出る場合は、故障の可能性がありますので、カシオテクノ・サービスステーションにてチェックを受けてください。

■電池切れ予告表示

電池が消耗してきますとバッテリーマークが点滅して、電池切れが近いことを知らせます。電池切れ予告状態になったときは以下の操作ができませんので、速やかに電池を交換してください。

- ●ライトの点灯
- ●センサーによる計測
- ●アラーム・時報などの報音
- ●アナログ部（針）のセット

> 潜水直前の電池切れトラブルを防ぐため、潜水頻度に応じて早めに電池交換を行なうことをおすすめします。

★リカバーマークが点灯している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ●ライトの点灯
- ●センサーによる計測
- ●アラーム・時報などの報音
- ●アナログ部（針）のセット

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

★低温下での電池性能について

低温下では、電池の特性により電池性能が低下します。特に、低温下でライト点灯を繰り返し行なった場合、新しい電池においても電池切れ予告状態（バッテリーマークが点滅）になることがあります。これは、低温下における一時的な電池性能の低下によるもので、常温に戻れば正常に使用できます。

時計を腕に装着すると体温で暖められますので、低温下でライトを頻繁に使用するときは、本機を腕につけたままにしてご使用ください。

タイマーの使い方

操作のしくみにしたがってⒸボタンを押して、タイマーモードにします。

タイマーは１分単位で24時間までセットできます。セットした時間を経過（タイムアップ）すると10秒間の電子音が鳴ります。

また、タイムアップ後も自動的に計測を繰り返すオートリピートタイマーとしても使えます。

■タイマー方法について

本機のタイマーは以下の２種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

> **●リピートタイマー（繰り返し計測）**
> タイムアップすると計測が止まり、約10秒後にタイマー時間表示に戻ります。
>
> **●オートリピートタイマー（自動繰り返し計測）**
> タイムアップしても、計測ストップするまで自動的に同じ時間を繰り返し計測します。
> ※オートリピートタイマーのときは、“ᔓ”マークが点灯します。

■電子音の報音について

●タイムアップ予告

タイムアップ予告をONに設定すると、タイムアップの10・5・4・3・2・1分前、50・40・30・20・10・5・4・3・2・1秒前に電子音が鳴ります。

※セットした時間が10分以下のときは、タイムアップ予告は途中から行ないます。

※タイムアップ予告はON／OFFの切り替えができます（「■タイムアップ予告のON／OFF設定」参照）。なお、タイムアップ予告がONのときは、“♪”マークが点灯します。

※水深計測モードでは、タイムアップ予告がONでも電子音は鳴りません。

●タイムアップになると

10秒間の電子音が鳴ります。

※電子音が鳴っているときに、いずれかのボタンを押すと音が止まります。

※水深計測モードでは、オートリピートタイマーのタイムアップ音は鳴りません。

■タイマーのセット

(1)セット状態にする

タイマーモードのとき、

Ⓐボタンを約２秒間押します

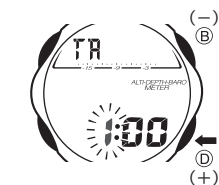
➡「時」が点滅します。

(2)「時」をセットする

ⒹまたはⒷボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

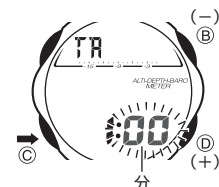
※それぞれ押し続けると早送りします。

※24時間にセットするときは、“0:00”に合わせます。

(3)「分」をセットする

Ⓒボタンを押します

➡「分」が点滅します。

「分」も「時」と同様にⒹまたはⒷボタンでセットします。

(－) Ⓑ TR 1:00 Ⓒ Ⓓ (＋) 分

(4)「タイマー切替」にする

Ⓒボタンを押します

➡タイマーの切り替えになります。

(5)タイマーを選ぶ

Ⓓボタンを押します

➡リピートタイマーとオートリピートタイマーが切り替わります。

※オートリピートタイマーのときは、“ᔓ”マークが点灯します。

(6)セットを終わる

Ⓐボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ タイムアップ予告のON／OFF設定

タイマーモード（リセット状態または計測中）のとき、

Ⓑ ボタンを押します

➟ Ⓑ ボタンを押すごとに、タイムアップ予告の ON ／ OFF が切り替わります。

※ タイムアップ予告がONのときは、“♪” マークが点灯します。

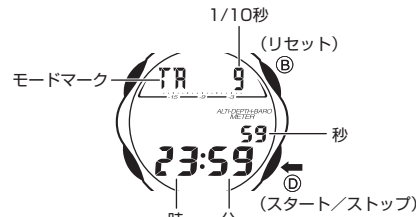
タイムアップ予告ON
のとき点灯

■ タイマーの使い方（減算計測のしかた）

タイマーモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➟ Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。

※ 1/10 秒単位で計測を行ないます。

● 計測ストップ後Ⓑ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（リセット）。

● ロスタイムがあるときは、Ⓓ ボタンでストップ後、もう一度Ⓓ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

ストップウオッチの使い方

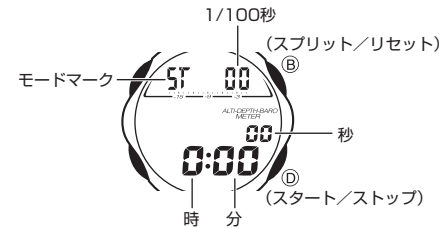
操作のしくみにしたがってⒸボタンを押して、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは 1/100 秒単位で 23 時間 59 分 59 秒 99（24 時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に 0 に戻って計測し続けます。

■ 計測のしかた

ストップウオッチモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➟ Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。

● 通常計測

積算計測… ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓓ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

● スプリットタイム（途中経過時間）の計測

● 1・2 着同時計測

Ⓓ ➡ Ⓑ ➡ Ⓓ ➡ Ⓑ ➡ Ⓑ

スタート　1着ゴール（1着タイム表示）　2着ゴール　2着タイム表示　リセット

● 計測中にⒷボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（SPL表示）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

● 計測終了後Ⓑ ボタンを押すと、計測値が 0 に戻ります（リセット）。

アラーム・時報の使い方

操作のしくみにしたがってⒸボタンを押して、アラームモードにします。

時分を設定できるアラームが５本あり、設定した時刻になると 10 秒間電子音が鳴ります。
また、毎正時（00 分）に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

(1)アラームを選ぶ

アラームモードのとき、

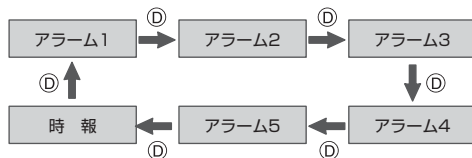
Ⓓ ボタンを押します

➟ Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わりますので、設定したいアラームを選びます。

モードマーク　アラーム番号

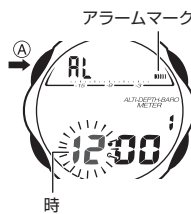
AL　12:00　1　Ⓓ

アラーム時刻

アラーム1 →Ⓓ アラーム2 →Ⓓ アラーム3 →Ⓓ アラーム4 →Ⓓ アラーム5 →Ⓓ 時　報 →Ⓓ アラーム1

(2)セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➟「時」が点滅します。

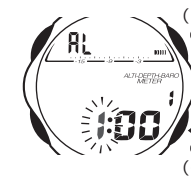
※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームが ON になります。

(3)「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➟ Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

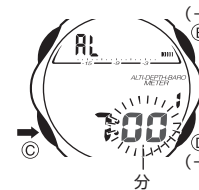
※ それぞれ押し続けると早送りします。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）または24 時間制にご注意ください。

※ 基本時刻を24 時間制にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制で表示されます。

(4)「分」をセットする

Ⓒ ボタンを押します

➟「分」が点滅します。

「分」も「時」と同様にⒹ またはⒷボタンでセットします。

(5)セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➟ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■アラーム・時報のON／OFF設定

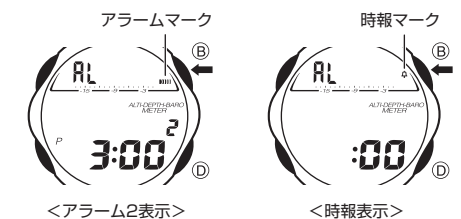
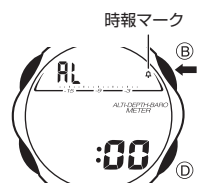
準備：アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、鳴らしたいアラームを選びます。また、時報を鳴らしたいときは時報表示を選びます。

Ⓑ ボタンを押します

➟ Ⓑ ボタンを押すごとにアラームまたは時報の ON ／ OFF が切り替わります。

※ それぞれのマークが点灯しているときが ON となり、アラーム・時報が鳴ります。

アラームマーク

AL　P 3:00　2　Ⓑ　Ⓓ

<アラーム2表示>

<時報表示>

■鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

CASIO

時刻・カレンダーの合わせ方

以下の操作は時刻モードで行ないます。

電池交換後などで、時刻やカレンダーが合っていないときは、以下の方法でセットします。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■デジタル時刻・カレンダーの合わせ方

(1) セット状態にする

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➟「秒」が点滅します。

(2)「秒」合わせ…30 秒以内の遅れ／進みの修正

時報に合わせて Ⓓ ボタンを押します

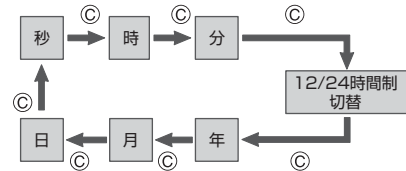
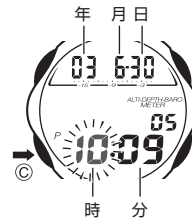
➟「00秒」からスタートします。

※ 秒が00〜29のときは切り捨てられ、30〜59のときは 1 分繰り上がって「00 秒」になります。

(3)「時刻・カレンダー」合わせ

a. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➟ Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。

b. 点滅箇所のセット

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➟ Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

★「時」「分」「年」「月」「日」セットのときは…

Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※それぞれ押し続けると早送りします。

★「12/24 時間制切替」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。

a.〜b. の操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）、または 24 時間制にご注意ください。

※「年」は 00（2000 年）〜 39（2039 年）の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外の修正は不要です。

(4) セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➟ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２〜３分間すると、自動的に点滅が止まります。

■アナログ部（針）の合わせ方

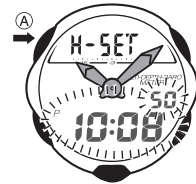
アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

準備：操作のしくみにしたがって Ⓒ ボタンを押して、ハンドセットモードにします。

(1) セット状態にする

ハンドセットモードのとき、

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➟ 現在時刻が点滅します。

(2) アナログ部を合わせる

Ⓓ ボタンを押します

➟ Ⓓ ボタンを押すごとに時計回りに 1/3 分（20 秒）ずつ進みますので、デジタル部の時刻丁度にアナログ針を合わせます。

※押し続けると早送りします（針は逆方向には進みません）。

<針の自動早送り>

● Ⓓ ボタンを押し続けて早送り中に Ⓑ ボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。

● 自動早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

(3) セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➟ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２〜３分間すると、自動的に点滅が止まります。

※ 操作のタイミングにより、針が少し遅れることがあります。このようなときは、もう一度セット状態にしてから針を 1 ステップか 2 ステップ進めてください。